

2014/09/14 の定期メンテナンスにおけるアップデート情報

2014年9月14日に実施した定期メンテナンスを実施しました。

事前情報でお知らせしたkintone APIの変更点のほかに、次の変更が適用されています。

kintone API SDK(β) for Java

指定した[アプリの情報を取得するAPI](#)に対応しました。
公開済みの [kintone API SDK\(β\) for Java](#) を再取得してください。

kintone JavaScript API

改修された不具合

- 空の配列またはオブジェクトをパラメータに指定してkintone APIを実行すると、Webブラウザを操作できなくなる。

※以降は、事前情報でお知らせしたkintone APIの変更点です。

kintone REST API

改修された不具合

- 次のAPIで、「rights[].entities[].entity.code」パラメータに、テーブル内のユーザー選択フィールドを指定できない。
 - レコードのアクセス権を更新するAPI
 - フィールドのアクセス権を更新するAPI
- 0以下のidを指定して、フィールドのアクセス権を更新するAPI (/k/v1/field/acl.json) を実行した場合に、表示されるエラーが正しくない。

改修前のエラーメッセージ：指定したアプリ(id:XX)が見つかりません。削除されている可能性があります。

改修後のエラーメッセージ：入力内容が正しくありません。最小でも1以上です。

- 存在しないフィールドの値を指定すると、レコードを一括操作するAPI (/k/v1/records.json) の実行に失敗する。

改修前の動作：エラーになり、実行されない。

改修後の動作：エラーにならず、存在するフィールドに対する操作は完了する。

- APIトークンを使用してゲストスペース内のアプリにレコードを登録すると、そのアプリのレコード一覧画面を表示できなくなる。

変更された仕様

- レコードのアクセス権を更新するAPI (/k/v1/record/acl.json) で、filterCondパラメータの指定に次の関数を使用できないように変更
 - NOW()
 - TODAY()
 - LAST_MONTH()
 - THIS_MONTH()
 - THIS_YEAR()

※上記の関数を使用した設定が正しく動作しないことによる、仕様変更です。

kintoneの画面上では、2014年7月13日のアップデートで、同様の条件を設定できないよう変更されています。

なお、アップデート前に指定した設定は、アップデート後も維持されます。

ただし、設定が正しく動作しないため、期待したアクセス権が適用されない場合があります。

追加された機能

- 指定したアプリの次の情報を取得するAPI
 - ID
 - アプリコード
 - 名前
 - 説明
 - 所属するスペースのID
 - 所属するスレッドのID
 - 作成日時
 - 作成者（ログイン名と表示名）
 - 更新日時
 - 更新者（ログイン名と表示名）※スペース内のアプリではない場合、所属するスペースのIDとスレッドのIDはnullになります

リクエスト例：

```
// アプリIDが1のアプリ情報を取得する場合
kintone.api('/k/v1/app', 'GET', { "id": 1 }, function (resp) {
  console.log(resp)
});
```

```
// アプリIDが1と2のアプリ情報を一括して取得する場合
kintone.api('/k/v1/apps', 'GET', { "ids": [1,2] }, function (resp) {
  console.log(resp)
});
```

レスポンス例：

```
// 1件ずつ取得した場合
{
  "appId": "1",
  "code": "",
  "name": "アプリ",
  "description": "アプリです",
  "spaceId": "2",
  "threadId": "3",
  "createdAt": "2014-05-02T05:14:05.000Z",
```

```

"creator": {
  "code": "",
  "name": ""
},
"modifiedAt": "2014-06-02T05:14:05.000Z",
"modifier": {
  "code": "user1",
  "name": "user1"
}
}
}

// 一括で取得した場合
{
  "apps": [
    {
      "appId": "1",
      "code": "BAR",
      "name": "MyTestApp",
      "description": ""
      "spaceId": null,
      "threadId": null,
      "createdAt": "2014-06-02T05:14:05.000Z",
      "creator": {
        "code": "user1",
        "name": "user1"
      },
      "modifiedAt": "2014-06-02T05:14:05.000Z",
      "modifier": {
        "code": "user1",
        "name": "user1"
      }
    },
    {
      "appId": "2",
      "code": "FOO",
      "name": "TEST",
      "description": ""
      "spaceId": "123",
      "threadId": "456",
      "createdAt": "2014-06-03T05:14:05.000Z",
      "creator": {
        "code": "user2",
        "name": "user2"
      },
      "modifiedAt": "2014-06-03T05:14:05.000Z",
      "modifier": {
        "code": "user2",
        "name": "user2"
      }
    }
  ]
}

```

kintone JavaScript API

改修された不具合

- スマートフォンのレコード追加／編集画面で、ユーザー選択フィールドの値を編集すると、指定したcodeがログイン名と一致するユーザーが選択されない不具合を改修。

改修前の動作：指定したcodeが表示名と一致するユーザーが選択される。

改修後の動作：指定したcodeがログイン名と一致するユーザーが選択される。

変更された仕様

[フィールド形式](#) の次のフィールドで、ゲストユーザーが含まれている場合、"code" に "guest/" が含まれるようになります。

- ユーザー選択フィールド
- 作成者フィールド
- 更新者フィールド

ユーザー選択フィールドで、ゲストユーザーのログイン名が "sato@cybozu.com" の例

```

    "<フィールドコード>": {
      "type": "USER_SELECT",
      "value": [
        {
          "code": "sato@cybozu.com",
          "name": "Noboru Sato"
        }
      ]
    }
  }
}

```

変更前

```

    "<フィールドコード>": {
      "type": "USER_SELECT",
      "value": [
        {
          "code": "guest/sato@cybozu.com",
          "name": "Noboru Sato"
        }
      ]
    }
  }
}

```

変更後

追加された機能

- ゲストユーザーが、kintoneに読み込んだJavaScriptでREST APIを使用する機能
ゲストユーザーは次の処理を実行できます。
 - レコードの取得
 - レコードの登録
 - レコードの更新
 - レコードの削除
 - フォーム設計情報の取得
 - アプリ情報の取得
 - ファイルのダウンロード
 - ファイルのアップロード
- kintone.apiの第1引数に、httpsから始まるURLで、実行するREST APIのエンドポイントを指定する機能
kintone.apiは、REST APIのリクエストを送信する関数です。

リクエスト例：

```

// アプリIDが1、レコードIDが5のレコード情報を取得してレコード番号を出力する場合
kintone.api('https://(サブドメイン名).cybozu.com/k/v1/record.json', 'GET', {app: 1, id: 5}, function(resp) {
  console.log(resp['record']['レコード番号']['value']);
});

```

- URLを取得するAPIに引数を追加
引数にtrueを指定すると、次の画面でAPIを実行した場合に、REST APIの実行に必要なゲストスペース用のエンドポイントが返されます。
 - ゲストスペース内の画面
 - ゲストスペース内のアプリの通知を開いた画面

リクエスト例：

```

// スペースIDが1のスペースで実行する場合
var url = kintone.api.url('/k/v1/record', true);

```

```
console.log(url);
```

```
// 出力結果：
```

```
// "https://(サブドメイン名).cybozu.com/k/guest/1/v1/record.json"
```

```
// QueryString付きのURLを取得する場合
```

```
var urlForGet = kintone.api.urlForGet('/k/v1/records', {app:1,fields:["レコード番号"]}, true);  
console.log(decodeURIComponent(urlForGet));
```

```
// 出力結果：
```

```
// https://example.cybozu.com/k/guest/1/v1/records.json?app=1&fields[0]=レコード番号
```